

2005年

11
月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 145

もくじ

- 2 アカデミーの窓
- 3 まなびの広場
- 4 特集 インタビュー 高橋フサノさん
- 6 芸術・文化ロード
- 7 まち・ひと・多面体／くらし百景 歌壇
- 8 イベントパーク



岡本 太郎 画 「装える戦士」

発行・(財)川崎市生涯学習財団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085
ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp



アカデミーの窓

かわさき市民アカデミーの情報

●アカデミーの窓に関する申し込み・問い合わせ●
→事業推進室 ☎ 044(733)6626

多彩な催し かわさき市民アカデミー 第11回学園祭 (公開講座)

かわさき市民アカデミーの受講生が主体になって企画・運営する「第11回学園祭」が11月19日(土)20日(日)を中心に実施されます。今年も講演会や見学会など多彩な催しがいっぱいです。みなさんのご来場をお待ちしています。

日 時	内 容	講 師 (肩書き)	会 場・定 員
11月16日(水) 13時30分～15時30分	講演「ルネッサンス絵画の君主～ ピエロ・デッラ・フランチェスカ」	石鍋 真澄 (成城大学教授)	新百合21ビル 150人
11月17日(木) 13時30分～17時	鑑賞会 ※1 歌劇「仮面舞踏会」(ヴェルディ)	花澤 幸男・榎本悌次郎 (オペラ研究家)	川崎市国際交流センター 30人
11月19日(土) 10時30分～12時	オープニング学園祭記念講演 「観光カリスマが語る 熊野古道」	坂本 勲生 (熊野本宮語り部の会会長)	生涯学習プラザ 401室 100人
11月19日(土) 13時30分～15時	講演「離島の自然と文化裏話」	向 一陽 (山岳会会長)	生涯学習プラザ 401室 100人
11月19日(土) 13時～14時30分	講演「道元と私」	森本 和夫 (東京大学名誉教授)	生涯学習プラザ 201室 60人
11月20日(日) 10時～12時	講演「源氏3代と北条政子」	関 幸彦 (鶴見大学教授)	生涯学習プラザ 401室 100人
11月20日(日) 13時15分～14時45分	講演「村上 龍を語る」と文学賞発表	横尾 和博 (文芸評論家)	生涯学習プラザ 301室 60人
11月20日(日) 13時30分～15時30分	講演「子どもの生活と育ちの危機」	瀧井 宏臣 (ルポライター)	生涯学習プラザ 401室 80人
11月19日(土) 12時～15時	高齢者疑似体験と車いす体験	「高齢者福祉」受講生	生涯学習プラザ 301室
11月20日(日) 13時～15時	アートセラピー体験 ※2 ワークショップ 有料	西田 清子 (日本臨床美術協会事務局長)	生涯学習プラザ 201室 25人
11月19日～20日 11時～15時	展示 川崎の自然(春秋)	「川崎学Ⅳ」受講生	生涯学習プラザ 402室
11月19日～20日 9時～16時	展示 まちづくりの歴史	「川崎学Ⅲ」受講生	生涯学習プラザ 203室
11月24日(木) 14時～16時	大谷康子ヴァイオリン演奏会 ※3 有料	大谷 康子 (東京交響楽団コンサートマスター)	新百合21ビル 450人

◆※1※2※3は事前申し込み。11月1日(火)より受け付け、先着順。その他の催しは当日先着順。
※3は11月1日より生涯学習プラザ3階と新百合21ビルB2の当財団分室でチケット販売。(日曜・祝日は除く)
◆入場は無料(ただし※2は1000円※3は1200円)

講 師 紹 介

「科学」の講座と東先生

「科学」コース 与世田 勉

市民アカデミーの講座の中で「科学」は人気が高いものの一つで、受講者は100人を超えています。毎学期の講義は、内容が新鮮でしかも充実しています。この講座のテーマは、身の回りで目にすることから宇宙の彼方の事象まで幅広く、自分自身の持つ興味とどこかで必ず接点があること、何度聴いてもその都度新しい発見があり新しい知識と出会えることなどが魅力です。これはコーディネータの東昭先生のこの講座にかける熱意と努力に負うところが大きいと考えます。また、東先生による講義は、ご自身の専門分野以外の事柄であっても、写真や図表をふんだんに用い、平易な用語で、身振り手振りを加え、時にはユーモアを交え親しみのある話し方で進めてくださいます。楽しく聴きながら理解を深め、科学する心を養うことができる素晴らしい講義です。

少年のように輝く先生

「科学」コース 杉野 慶子

私は、1997年に「身の回りの科学～茶碗と湯呑みの形が違うのは？」という科学の講座を受講のきっかけで、それ以来「遺伝子」や「水ロケット」「動植物の生態」「昔の玩具」等について学んできました。女性も多く受講されています。ヘリコプターの先駆者でもある東昭先生は、かつてはトン

プロフィール

東 昭(あずま・あきら)

1927年川崎市生まれ。東京大学工学部卒業。現東京大学名誉教授。『航空を科学する』『模型航空機と風の科学』など航空力学に関する著書多数。かわさき市民アカデミーでは毎回大人気の「科学」コースを担当。



ボになりたかった少年であり、釣り好きでもあります。「SAの会」(科学の同好会)で、奥多摩へバス旅行した際、先生は地下足袋姿で釣り上げた魚を早速解剖。私たちは説明を聞きながら貴重な魚を一口ずつ味わわせて頂きました。また、先生が出演したNHKの番組で紹介された「トンボの里」へも見学に行きました。その時の先生は、目を輝かせ少年のようでした。

東先生の念願は「帆立貝が帆を立てて大移動している様子を見ること」だそうです。「どなたか見た事のある方はご一報を」と話しておられます。

冬の「スポーツ教室」のお知らせ

生涯学習プラザでは次のように屋内スポーツ教室を開催します。自分の生活スタイルに合う教室を見つけ、体を動かし、健康で快適な日々を送りましょう。皆様の申し込みお待ちしております。

教室名	曜日・時間	日程(予定)
ヨーガ教室A	火曜 13:30～15:00	1月10日 ～3月28日 全10回
ヨーガ教室B	火曜 15:15～16:45	
エアロビクス教室	月曜 10:00～11:10	1月16日 ～3月20日 全10回
気功太極拳教室	火曜 10:00～11:30	1月10日 ～3月20日 全10回

◆定員⇒各40人(応募者多数の場合は抽選)

◆受講料⇒各6000円

◆応募方法⇒往復ハガキに、教室名、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記し、下記のあて先に送って下さい。

◆申し込み期間⇒11月24日(木)から12月2日(金)(必着)

◆あて先⇒〒211-0064川崎市中原区今井南町514-1
川崎市生涯学習プラザ「冬のスポーツ教室」係
問い合わせ 事業推進室 ☎044(733)5894 Fax044(733)6697



気功太極拳教室



ヨーガ教室

「ふれあいネット」にアクセスを!

川崎市の公共施設利用予約システム「ふれあいネット」には、市内の生涯学習情報を、さまざまな角度から提供するための「生涯学習」のサイトが組み入れられています。サイトは、12のデータベースからできており、主なものは、次のようなものです。

1 施設情報

文化施設やスポーツ施設を利用したいときに。

2 講座・催し物情報

講座や学習会などについて知りたいときに。

3 団体・グループ情報

グループに入って学びたい、仲間と出会いたいときに。

4 指導者・人材情報

グループ学習・スポーツの指導者を探したいときに。

5 電子掲示板

音楽、美術、語学、文化、スポーツ、レクリエーション、生活、趣味など、あなたの目的にあった情報を探したいときに。

「ふれあいネット」へのアクセスは、市内44カ所の公共施設に設置された「ふれあいネット」利用者端末機からだけでなく、インターネットに接続されたパソコンからもアクセスできますので、ご活用ください。

アクセス方法

- ①アドレス欄に川崎市ホームページ
<http://www.city.kawasaki.jp/>を入力する
- ②「川崎市ホームページ」の川崎オンライン、「ふれあいネット(施設予約)」をクリック
- ③表示された画面の「ふれあいネット・インターネット入口」をクリック
- ④表示された画面の「ご利用にあたって」「機能説明」「ふれあいネット」の中から「ふれあいネット」をクリック
- ⑤表示された画面の「施設予約」「生涯学習」「利用者情報」の中から「生涯学習」をクリック

問い合わせ 学習情報室 ☎ 044 (233) 6250

財団主催の講座・相談・貸館などの情報

まなびの広場

特集

インタビュー

「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局長

高橋 フサノ さん

「川崎が音楽の街?」「エーッ、産業の街じゃないの?」と思う人がいるかもしれませんね。近年、ミュージア川崎ゲートプラザ、市民ミュージアムのトーマス転炉広場、溝ノ口駅や新百合ヶ丘駅周辺など街のあちこちで若者たちが演奏している姿を見かけます。川崎市では昨年4月、市制80周年を機に「音楽でまちづくり」をスローガンに「音楽のまち・かわさき」推進協議会を発足させました。今回はその初代事務局長に就任した高橋フサノさんに登場していただきました。

「誰に対しても何に対しても誠実に」を心がけて長年教育の世界で仕事をしてこられた高橋さんが、新たな世界で仕事に取り組んで一年半。推進協議会の活動を通して感じたことや学びについて伺いました。「『音楽でまちづくりなんて川崎ってすごいね』と言われることが一番うれしいですね」と優しい眼差しで語る高橋さん。そのソフトな雰囲気と労をいとわない人柄に周囲から期待が寄せられています。



音楽のまちかわさき

潤いある音楽のまちに

——高橋さんは、昨年の6月に「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局長になられてご活躍中ですが「音楽のまち・かわさき」推進協議会とは、どのような団体ですか。

高橋 川崎市制80周年を機に、川崎駅西口にミュージア川崎シンフォニーホールがオープンしまして、音楽を通して活力とうるおいのあるまちづくりをしていこうということに賛同してくださった市内の音楽大学、企業、音楽関係団体、メディア、行政などが一体となって、昨年の4月に発足した民間団体です。活動の基本としては、市内の各所で独自に活動している音楽人材・団体・施設とを連携して「音楽のまち」としての基盤づくりをすること、音楽を通して産業の振興を進め経済の活性化に貢献すること、音楽関連の情報を発信するとともに市内外に「音楽のまち・かわさき」を幅広くアピールすることです。

——発足して1年半、どんな活動をされてきましたか。

高橋 昨年は「音楽のまち・かわさき」をより多くの方に知っていただくために、情報発信に力を入れてきました。市内で活動している音楽人や団体、各地で行われるコンサートやイベント等の紹介をさまざまな方法で行ってきました。まず、情報誌「Kawasaki Music Magazine」の発行です。今年は偶数月の発行になっていますが、昨年はほぼ毎月発行して「音楽のまち・かわさき」の取り組みをアピールしてきました。

また、テレビ番組でも毎週市内の音楽活動や市内で活躍する音楽人を紹介し、活動される方々の励みになっていると思っています。インターネットでは、ホームページを開設してより多くの情報を迅速に国内外に発信しています。同時にWeb上で「音楽コンテスト」を開催し、多くの方にアクセスしていただいています。さらに「ティーンエイジと音楽」や「音楽とあそぼう展」、「全国手づくり楽器アイデアコンテストイベント」も主催しました。

今年は、7月に麻生音楽祭協賛イベントとして「音楽療法って何?」という講座を昭和音楽大学の協力を得て開催しました。200人近い方々の参加があり関心の高さにびっくりしました。9月からは「音楽のまち」を支えてもらう人材育成のために、いろいろな分野の方に関わっていただいて、音楽イベントの企画・運営ができるように「イベント塾」を開催しています。20代から60代までの25人が、理論と実際にコンサートスタッフとして現場を体験しながら学んでいます。11月に「全国手づくり楽器アイデアコンテスト」を実施します。ビデオでの手づくり楽器創作部門を募集していますが、全国からの問い合わせも多く60点近く集まりました。

——推進協議会の活動は最初の構想通り進んでいますか。川崎のイメージが少し変わったなど感じることはありますか。

高橋 まず基盤づくりをしてきましたが、市民からは「情報誌に掲載して欲しい」「活動を紹介して欲しい」という自

薦・他薦も多くなってきています。当初の目的である「音楽のまち・かわさき」の認知度を高めるという点では、達成に近づいていると思います。最近では他の行政からも注目され、問い合わせや視察も増えています。まちの雰囲気も少しずつですが変わってきているように思います。音楽施設ではない場所、例えば二ヶ領せせらぎ館や、国指定の登録文化財「円筒分水」の所などで音楽会をするというように、思いもかけない所で活動が行われるようになってきました。

まちの中での演奏も増えているように思います。推進協議会には「ストリート委員会」があります。これは商店街、商業施設の方が手を携えてストリートミュージシャンを応援していこうという委員会です。ミュージア川崎ゲートプラザで毎週金・土・日に演奏できるので、市外のミュージシャンがそういう噂を聞きつけて「どうしたらミュージアの前で演奏できますか」という問い合わせもあります。

——事務局長の仕事を通してどんなことを感じましたか。

高橋 長い間学校という限られた世界で仕事をしてきました。が、音楽の専門家の方、メディアや企業の方、いろいろな音楽団体の方等と接することが多い推進協議会は、これまでに経験したことのないことばかりで最初は驚きの連続でした。それぞれの考え方や受け止め方も違いますが、「音楽のまちづくり」という同じ目的に向かっていくすばらしさを感じました。この年齢になって世界が広がりましたね。今はとても良い仕事をさせていただいていると思っています。



主催する講座でスタッフと打ち合わせをする高橋さん

——音楽に対する造詣が深い高橋さんの音楽との出会いで心に残っていることは何ですか。

高橋 小さいころから音楽は好きでした。特に印象に残っているのが、小学校3年生の運動会の時にお遊戯をするために歌った「野ぎく」です。レコードなどが無い時代でしたので、先生が弾くオルガンに合わせて歌いました。そのとき先生から「あなたはいい声ね」と言われたのがとても嬉しかったですね。そのあと「愛唱歌集」を買ってもらって、本がぼろぼろになるほど歌っていました。中学生の時は合唱部でした。熱心な先生がいてコンクールで群馬県代表として関東大会にも出場したことがありました。高校時代も大学時代も合唱や声楽を続けていて、音楽にはずっと関わっていました。感動を共有できることが音楽の最大の魅力ではないでしょうか。

——高橋さんのお好きな音楽は何ですか。

高橋 長年関わってきたクラシックが好きです。一時期はオペラばかり観に行っていたこともあります。母が琴をしていたので邦楽も好きですね。シャンソンも一度歌ってみたいと思っていますが、まだこの夢はかなっていません。この仕事



民族衣装をつけてカヤグムを演奏 (提供写真)

をするようになってから、いろいろなジャンルの音楽を聴くようになりました。若者の音楽もよく聴きますしライブにも行きます。教員だった時は、子どもに教える立場でしたから、音楽も「教える音楽」で、いつもこちらから何かを発信しなくてはいけない、という感じでした。そういう意味ではどっぷりと音楽に浸れなかったように思います。ところが退職したとたん「楽しむ音楽」に変わったんです。音楽を聴くことも、歌ったり演奏したりすることも楽しんでます。

——何でも意欲的に吸収している高橋さんにとって「学び」とはどういうことですか。

高橋 学びとは挑戦してみることではないでしょうか。いくつかやってみて「これは自分に向いているかな」と思えるものがあつたら深くやってみる。高齢になっても「やってみよう」という気持ちだけは持ち続け、楽しみながら何かに打ち込める生活をしていきたいと思っています。

私は60歳を過ぎてから、ふれあい館の講座でカヤグム（韓国・朝鮮の琴）に出会いました。カヤグムは日本の琴にはない音色がとても魅力的でした。「年だからだめかな」と思ったのですが、講座終了後も習い続けています。覚えるのに時間がかかります。発表会を控えている時は、特訓を受けて曲を覚えますが、何度もまちがえて自信を失くしてしまうこともあります。でも人間って何かを課せられると、それをやろうと思えますよね。最終的にはそれを成し遂げて「大変だったけど、やってよかった」と充足感が得られます。年齢に関係なく、やる気さえあれば何でもできる気がしますね。

——事務局長としての夢はなんですか。

高橋 「川崎に来れば音楽ができるよ」というまちにしていきたいと思っています。川崎には朝鮮・韓国の人をはじめアジアの人たちがたくさん住んでいます。3月に「アジア音楽祭」を開催しましたがとても好評で来年も計画しています。これは大きな夢ですが、ゆくゆくはアジアだけでなく、川崎を舞台にいろいろな国の人が音楽を発信することのできる国際的な音楽祭が行われることを願っています。

高橋 フサノ さん (たかはし・ふさの)

「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局長。1937年群馬県生まれ。大学卒業後、川崎市公立学校に勤務し98年3月退職。その後、川崎市生涯学習振興事業団で嘱託として勤務。04年6月「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局長に就任。学生時代よりコーラスに親しみ、現在も練習に励んでいる。趣味は他にカヤグム（韓国・朝鮮の琴）の演奏、旅行、パソコンと多彩。幸区在住。

藝術文化ロード

このコーナーでは、日本民家園、市民ミュージアム、青少年科学館、岡本太郎美術館の施設を紹介します。それぞれの館の特色や見どころを順次掲載します。今回は生田緑地にある岡本太郎美術館からお届けします。

さまざまな太郎アートと美空間

— 岡本太郎美術館 —

1991(平成3)年、芸術家・岡本太郎は、出生地である川崎市に自身の主要作品を寄贈しました。それを受けて1999(平成11)年10月に開館したのが川崎市岡本太郎美術館です。

美術館は、「自然と融合した美術館」のコンセプトに基づき、展示室などの施設はほとんど地下にあり、地上には湧水を利用した滝や池を配した公園スペースとして、来館者の憩いの場となるように工夫しています。

館内は、岡本太郎の作品を肌で感じることができる「体感型展示空間」をコンセプトに、絵画、彫刻、家具など、岡本太郎の多岐にわたる作品を展示しています。

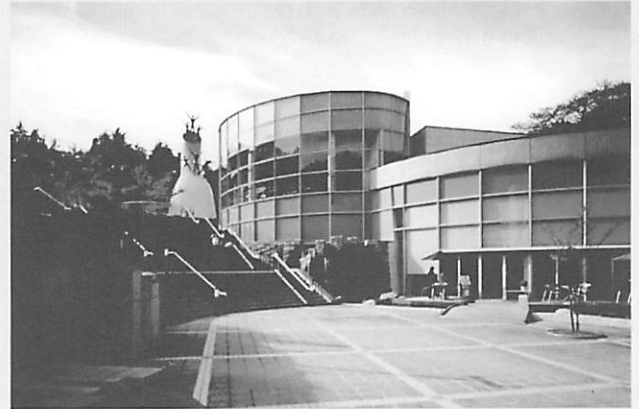
体感型展示で作品と向き合う

石段を上がり洞窟に入るイメージの通路を抜けるとエントランスホールです。天井のドームから光が差し込み、開放的な、また異質な空間に入り込んだ感覚になります。巨大な顔が迎える真っ赤な通路から常設展示室に入っていくと、ここは決まった順路のない、迷宮的な展示空間で、岡本太郎のジャンルを越えた様々な表現世界に出会うことができます。また、太郎の両親である漫画家・一平、小説家・かの子の作品も展示しています。



母の塔

足を進めて企画展示室では、岡本太郎に関連したテーマや、近現代の作品、新人作家等を紹介する企画展覧会を開催しています。現在、「北大路魯山人と岡本家の人びと〜魯山人は可亭・一平・かの子・太郎の目撃者だった」と題する展覧会を開催中です。北大路魯山人は、太郎の祖父で書家の可亭に



美術館外観

弟子入りし、1905年から約2年間、岡本家に住み込み、書家としての修行をしました。そして三世にわたる岡本家の人びと(岡本可亭・一平・かの子・太郎)とそれぞれ交流を持ち、よき理解者として岡本家三代の目撃者となりました。本展では、魯山人と岡本家の人びととの交流を通して彼らの作品などを紹介しております。

自然の中でゆったりとくつろぐ

企画展示室を出ると、ミュージアムショップとカフェテリアがあります。ミュージアムショップでは、岡本太郎グッズ、展覧会のカタログやポスター、太郎に関する書籍など、来館の記念になるものを揃えています。また、ショップ前には岡本太郎や美術館の情報を検索できる情報ブースがあり、映像や太郎作品に関する情報を見ることができます。カフェテリア「TARO」では大きなガラス越しに生田緑地の木々の緑、青い空を眺めながら飲み物やケーキを味わうことができます。

美術館の奥に立っているのがシンボルタワー「母の塔」です。「大地に深く根ざした巨木のたくましさ」「ゆたかでふくよかな母のやさしさ」などをイメージした太郎の原形をもとに、高さ30メートルの塔が制作されました。この塔の正面は、高津区二子に立つ岡本かの子の文学碑「誇り」にまっすぐに向かいあっています。外装は、「タローホワイト」という真珠色のクラッシュタイルで被われ、季節や時間の変化につれて微妙な揺らぎや光を放ちます。

太郎作品は常設展示も、定期的に入れ替えを行っており、様々な太郎ワールドを体験できます。まだご覧になっていない方はぜひ一度、おいでになったことのある方も二度三度と来館していただきたいと思います。

●「北大路魯山人と岡本家の人びと」展開催中(平成18年1月9日まで)●

◆開館時間⇒9:30~17:00(入館は16:30まで)

◆観覧料⇒大人900円、高校・大学生700円。

※幼児・小中学生は無料。65歳以上の方は、証明書(健康保険証など年齢がわかるもの)を提示して頂くと無料。身体障害者手帳等をお持ちの方は、手帳を提示して頂くと無料となります。

◆休館日⇒月曜日(月曜が祝日の場合は開館)・祝日の翌日(祝日の翌日が土日にあたる場合は開館)・年末年始

◆交通⇒小田急線向ヶ丘遊園駅南口より徒歩17分
問い合わせ…☎044(900)9898 FAX 044(900)9966

<http://www.taromuseum.jp>

まち・ひと・多面体

地域の手で学校環境の美化に取り組む

— 玉川中学校のボランティア —

小誌では「学校と地域の関わり」について、地域の方がさまざまな形で学習支援している様子を何度か取り上げてきました。今回は環境美化活動で関わっている方々を紹介します。

訪ねたのは中原区にある玉川中学校（郡司常雄校長・生徒数298人）。地域の方々が自主的に継続して清掃や畑の手入れをしていると聞き伺いました。

南門近くに住む中丸子親交会会長の遠藤長治さんは、早朝に学校周辺の路上約120メートルの清掃を続けて十数年になります。通学路に犬の糞が落ちているのを見かねて清掃したのがきっかけとのこと。遠藤さんは「きれいになると張り合いがあります。健康維持も兼ねて自分のできることをしているだけです」とゴミ一つない道で穏やかに話してくれました。

学校内にある畑で草取りをしているのは、地域町内会の元役員の田川晴由さんたちです。数年前から「総合学習」の一環として畑を作るようになり、それを手伝うようになったのだそうです。同校の敷地はかつて軍需工場があった場所で、掘り起こしたら瓦礫があり野菜づくりに向かない土地でしたが、今ではトウモロコシやジャガイモ、キュウリなどが収穫できるようになりました。またヒマワリ300本を周辺に植えまめに手入れもしています。「自分が好きでやっていること



です。喜んでもらえたら嬉しい」と田川さんは話します。

校舎の西側のフェンス沿い約40メートルの花壇にはペコニアやマリーゴールドが色とりどりの花を咲かせています。この花壇は、元PTA会長の深沢昌孝さんが「校長先生が草取りをしている姿を見て、それならここに花を植えよう」と自ら作ったものです。作業をしていると声をかけてくる生徒もいて、何気ない会話から交流が生まれているそうです。

郡司校長は「表に現れにくい部分や気づかないような部分を、さりげなく支えてくださり感謝しています。子どもの育ちには、職員以外の地域の眼差しが学校に注がれることが大切だ、ということを実感しています」と話していました。

くらし百景

歌壇

とどろき短歌会

楠の梢呼び交う声のやわらかく道ゆくわれに草に降りくる

久びさに朝のコーヒーいれて居り不揃いとなりし器取り出し

孫娘つぎつぎ巣立ち古き家に息子夫婦と吾と犬猫

盆に集う夫の妹年重ね面ざし仕ぐさの亡き義母写し

寺家裏の菓子屋の暖簾涼しくていにしえ偲び邑守りをり

一束の菜花賜ひぬ灯の下のコップに挿せば影淡き窓

かへらざる友のみ魂をこそ思へ白き木槿の花は咲きたり

この道はいつか来た道懐かしき母の歌声ふと風にのる

せまき庭に年毎にふえてはびこれる二人静の名はやさしきに

「光と影」を語る藤城清治氏の横に黒猫眼を開けて座す

てふてふとかけ出して来し幼子は消えし揚羽の影を追ひるる

逡巡の果ての結論先送り苦渋の刻を雷鳴近し

光塔より祈りの刻の響きゆきメッカに向きて祈る青年

道元の歌を読み解く書を読み仏門の道覗きし心地

清々と朝顔ブルーに咲き出でて秋の一日を命つくさむ

電線をつかみし朝顔朝なさな大空わかたつ藍色の帯

七十年星をみつめて清々し師は饗饗と語り給えり

星の降る夜のしづけさよ仰ぎみる空より妻よ地球に還れ

雷去りて後を吹き来る涼風に出番が来たところほろぎの声

リック背に足どりたしかに曇参なりと炎暑の外に友は出でゆく

*とどろき短歌会は平成七年、川崎市学校教職員互助会生きがい事業の一

環として生れた趣味の会です。歌会のほかに古今の秀歌鑑賞、吟行など

を行い、相互の親睦を深め、毎年秋に「合同歌集とどろき」を発行して

います。事務局 ☎ 〇四四（九七六） 四八六三の今泉

秋月チヅエ

朝井 薫

阿部ヒデ子

伊従 万千

五十嵐善雄

伊藤 とし

今泉 晴美

大場 貴子

岡本 コマ

加藤キミコ

金浜 淳

佐藤 茂治

佐藤 久子

清水 和

田島 生子

中村不二江

野村 クニ

箕輪 敏行

吉田 公夫

渡辺アキ子

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●講演会「じょうぶな子どもをつくる基本食」

11月3日(祝)14時、中小企業・婦人会館。講師は管理栄養士の幕内秀夫氏。前売り800円。定員300人。2歳以上の保育有り、300円。保育希望者は前売り入手前に(856)6478の横山さんへ申し込む。☎(752)2206の門馬さん。

●大人のための朗読会

11月8日(水)13時半、幸文化センター。朗読グループ「レザミ」による文学作品の朗読。定員40人。申し込み受付中。無料。☎(541)3915の幸図書館。

●五川大学公開講座

11月開講の「季節を楽しむフラワーデザイン」「紅茶の文化と歴史」「成人救急法講座」など18講座の受講生募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

●公開講座「人口減少社会のゆくえ～日本と世界の人口問題」

11月19日、26日、12月3日の土曜10時、全3回。場所は日本女子大学西生田生涯学習センター。パンフレット無料送付。詳細は☎(945)3323。

●平まなびあいグループAndante講座

▽11月11日(金)は日本社会臨床学会運営委員佐々木賢氏の「グローバル経済と若者」▽11月18日(金)は教育評論家村田栄一氏の「続・憲法はいま」▽12月2日(金)は日本社会臨床学会運営委員小沢牧子氏の「「縁をつむぐ」ということ」。宮前区の平こども文化センター。毎回10時。各1000円。3歳からの保育有り、1回300円。☎・Fax(865)8056の堀内さん。

●ランチタイムコンサート

11月16日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は、洗足学園音楽大学卒業生による金管アンサンブル。無料。☎(520)0200のミュゼ川崎シンフォニーホール。

●講座「クラシック音楽をもう一度基礎から見直してみる」

①11月29日②12月27日の火曜、14時、多摩市民館。テーマは①「白鳥」(サン＝サーンス)は別れを告げない▽②「月の光」(ドビュッシー)は分水嶺。講師は音楽評論家の中村靖氏。各1000円。☎(888)6297の毛利さん。

●第12回北身館フェスティバル

11月12日(土)10時半～14時半。北部身体障害者福祉会館。ボランティアサークルによる体験・紹介、作業室の自主製品販売、模擬店、バザー他。無料。☎(811)6631。

●川崎朗読の会「うずら」朗読発表会

11月30日(水)14時、高津市民館。武田泰淳作朗読劇「ひかりごけ」の上演。内山鶴演出。無料。☎(751)3742の水口さん。

●東芝科学館イベント情報①GEMS探検隊②ガリレオ工房

①は11月19日(土)10時と13時半。「指紋の不思議」。対象は午前は小学1年～4年生、午後は小学3年～中学生。各50人。②は11月26日(土)10時と13時半。「ピンホールカメラ」。対象は小学3年～中学生。各50人。費用は①②とも500円。要予約。☎(549)2200の同館。

●第21回退職教職員作品展

11月20日(日)まで。10時～16時半。会館とどろき1Fギャラリー。退職教職員の写真、書道、絵画、彫刻などの作品展示。無料。詳細は☎(733)3333。

●かわさき現代彫刻展2005

12月16日(金)まで。10時～17時。THINK(テクノハブイノベーション)川崎：川崎区南渡田町1-1)内の「アウマンの家」中庭とその周辺。石井厚生、岩崎なな他10人の彫刻家の作品を展示。無料。☎(211)4112の川崎商工会議所。

●川崎市市民ミュージアム 犬 水木しげる展

11月19日(土)～2006年1月9日(祝)まで。9時半～17時(入館は16時半)。妖怪マンガ第一人者の水木しげるの全容を紹介。一般900円、高大生500円。☎(754)4500の同館。

●ミニ画廊スナック琴①写真(風景)②水彩画(風景)

①は10月29日(土)～11月12日(土)まで、下田正の作品。②は11月12日(土)～12月3日(土)まで、峰絵画教室の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544)0507。

●知事と語ろう！「子育て・子育て「かながわぐるみ」

12月3日(土)10時～12時、川崎区のソリッドスクエアホール。無料。保育有り(2歳～就学前6歳)、保育希望者は7日前までに要申込。☎(549)7000の川崎県民センター。

.....フリーマーケットを開催します.....

(助)川崎市生涯学習財団では、かわさき市民アカデミー学園祭の折に、地域ふれあい事業の一環として、フリーマーケットを開催します。思いがけない掘り出し物が見つかるかもしれません。どうぞお越しください。

◆日 時…11月19日(土) 10時～15時(雨天の場合は翌日)

◆場 所…川崎市生涯学習プラザ駐車場

(武蔵小杉駅徒歩12分)

今月の表紙

1962(昭和37)年作。油彩・キャンバス。227.0×182.0cm。川崎市岡本太郎美術館蔵。

岡本太郎は全国をまわる旅の中で日本の伝統を独自の視点から再発見し、自らの作品に反映させてきた。本作品は、梵字のような表現から書あるいは日本人の生命力の表現とも言われ、近年では制作されたころの情勢、特に権威に対抗する社会的な怒り等を表現しているとも解釈されている。

小誌は再生紙を使用しています。

川崎市生涯学習プラザ 施設貸館のご案内

川崎市生涯学習プラザは、学習活動の場として利用いただく通年開館の施設で、高校生以上で構成された団体に貸し出しています。講演会、会議、研修、サークル活動、ダンス、卓球、合唱、演奏などにご利用ください。(年末・年始と施設点検の時は休館)

◆施設…会議室4室(円卓2室)・大会議室1室・和室・多目的ルーム・フィットネスルーム

◆交通…JR南武線・東横線武蔵小杉駅から徒歩12分

◆申し込み…会議室は使用する3ヵ月前の同じ日から使用の3日前まで受け付け。多目的ルーム・フィットネスルームは使用する月の3ヵ月前の月初(平日)に抽選。

◆問い合わせ…料金及び詳細については☎044(733)5560 ※ホームページ<http://www.kpal.or.jp>に「施設利用案内」がありますのでご覧ください。